

○令和3年度 教育事業 「 秋の原生林探検 」(R3.11.16(土))



◆目的

- (1) 原生林を探検する活動等を通して、自然との共生について学ぶとともに、SDGsの観点から自分ができることを考える機会とする。

◆参加実績 (定員 20名)

参加 6名

- ・小学5年生 4名
- ・小学6年生 2名

◆プログラム

- ① アイスブレイク・・・(20分)
体を使った遊びを通して、参加者同士と職員との緊張感を解消し、話しやすい雰囲気をつくった。
- ② 十勝岳を知ろう・・・(30分)
十勝岳とその周辺の山の成り立ちを学習し、十勝岳山系が長い時間をかけて形成されたことを学んだ。また、十勝岳とその周辺にはどのような魅力があるのか自分なりの考えをもった上で次の活動に移るようにした。
- ③ 原生林を探検!・・・(210分(昼食を含む))
実際にコースを歩き、職員の開設を聞きながら自分の目で見て十勝岳やその周辺の魅力を見つけながら歩いた。



④ 活動のまとめ・ふりかえり・・・(50分)

探検中に自分が発見した興味のあるものを選び、本やインターネットで調べた。また、そこから考えた「十勝岳周辺の魅力」を発表した。その魅力を未来に残していくために、自分たちにできることは何かを考え、その行動が実はSDGsと繋がっているということを実感することで、今後の自分たちの生活で取り組んでいきたい思いについて考えを深めることができた。



◆事業運営・企画のポイント

○参加者全員が原生林を探検する中で、興味をもったものをじっくり観察する時間設定を行った。立ち止まって観察できる時間の余裕を持つことや、一人に一台カメラを持たせて気になったものを撮影することができるようにすることで、参加者が興味の対象にじっくりと関わることができるようにした。

○自分の考えた具体的な行動をSDGsの169のターゲットとつなげられるように、ターゲットの内容を簡単な言葉に変えたパネルを作成した。変えた言葉は、小学生が日常生活で実践可能なものであり、「～しない」という否定の言葉ではなく、「～する」という能動的な動きにつながる言葉になるように心がけて作成した。

◆参加者の声

□いろいろな自然を見ることができて、楽しかった。

□楽しかったから、またこのような事業があれば、行きたいと思った。

◆事業の成果と課題

① 余裕を持った原生林探検を行うことで、もっと知りたいと思ったものに対してじっくり観察したり写真に撮ったりすることができ、フィールドワーク後の調べる活動につながった。

② 「共生」という言葉の意味が広く、子どもたちが共生について学ぶことができたかがはっきりとしなかったため、事業で目指す参加者の姿を明確にしておく必要がある。

③ SDGsをテーマとしたときに、施設周辺の自然環境から持続可能な社会の在り方を自分事として考えることは難しいということが分かった。